

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
異なる部門の事業が連携した取組の部(部門連携の部)

実施機関名（主事業の実施機関名）	大分県
実施機関名（連携先の実施機関名）	竹田市
ふ り が な	たまらいがわそうごうりゅういきぼうさいじぎょう～みずべくかんをいかしたみりよくあるちいきのこうりゅうくかん「たまりばたけた」のせいび～
1. 事業(施策)の名称	玉来川総合流域防災事業 ～水辺空間を活かした魅力ある地域の交流空間「たまりばたけた」の整備～
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成 30 年4月1日 ～ 令和 6 年 3 月 25 日
3. 事業費(工事費)	玉来川総合流域防災事業(大分県) 537百万円 玉来川かわまちづくり事業(竹田市) 30百万円 道路改良事業(竹田市) 139百万円
4. キーワード	玉来川かわまちづくり、たまりばたけた、河川空間のオープン化
5. 事業概要	

竹田市には城下町としての歴史的風情や文化資源が多く残されている。こうした貴重な文化資源の拠点的役割を担ってきた文化会館が平成24年の九州北部豪雨で被災したため、文化会館の復旧に合わせて公園整備、道路整備を行い、さらに周辺を流れる玉来川を親しみあふれる市民の憩いの場とするために、大分県・竹田市・地域住民が協働し「かわまちづくり」を実施した。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	② ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)事業連携による一体整備 (c)利活用や景観に配慮した施工	(b)行政と地域団体、学識者等との協働 (d)地元主体のイベント開催 (f)河川空間のオープン化(民間事業者による河川空間の利用)
アピールする 2)「秀でた成果」	(e)石積護岸や親水広場による自然と調和した景観形成 (f)遊歩道やイベント広場設置によるコミュニティ空間の創出	(c)民間事業者の参画による維持管理の低減 (f)河川空間を活用した、にぎわい創出・地域振興

7. 特にアピールしたい点
平成 24 年九州北部豪雨により、文化資源の拠点的役割を担ってきた文化会館が被災。復興のシンボルとして総合文化ホール「グランツたけた」にリニューアルし、加えて、隣接する道路や都市公園を整備することで、まちづくりの拠点整備に取り組んでいる。 この交流エリアをさらに魅力あるものにするため、周辺の玉来川河川敷を含めた空間を一体的に利活用できるよう、かわまちづくりに取り組み、河川空間がもつ自然と調和した景観を活かし、地域全体のにぎわい創出・地域振興の場として生まれ変わった。

8. 事業を代表する写真及びキャプション

玉来川かわまちづくり
「たまりバたけた」全景



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等)〕

■位置図



■平成 24 年九州北部豪雨被害からの再建



玉来川とグランツたけた周辺施設を一体的に活用し、賑わいのあるまちづくりを進めるため、学識者・商工会・観光協会・自治会・行政が連携して「かわまちづくり検討会」を発足し、その実践組織として地元主体のワーキング部会を設置した。

● かわまちづくり検討会 構成：学識者、商工会、商店街、観光協会、行政 など

● ワーキング部会 構成：自治会、PTA、まちづくり団体、レクリエーション団体、子育て支援団体 など

多様な分野の関係者と意見を交わしながら、完成後の利活用や維持管理の視点も踏まえ、将来のあるべき姿を検討。屋内外で計 10 回のワークショップを開催し、地域の声を反映した施設整備計画を策定した。

ワークショップでは、施設の利用方法について、共通の活用内容と、目的に応じた4つのゾーンに分けて検討した。

(共通エリア) 各ゾーンをつなぐ外周部を活用したウォーキングできる遊歩道、読書、休憩スペース など

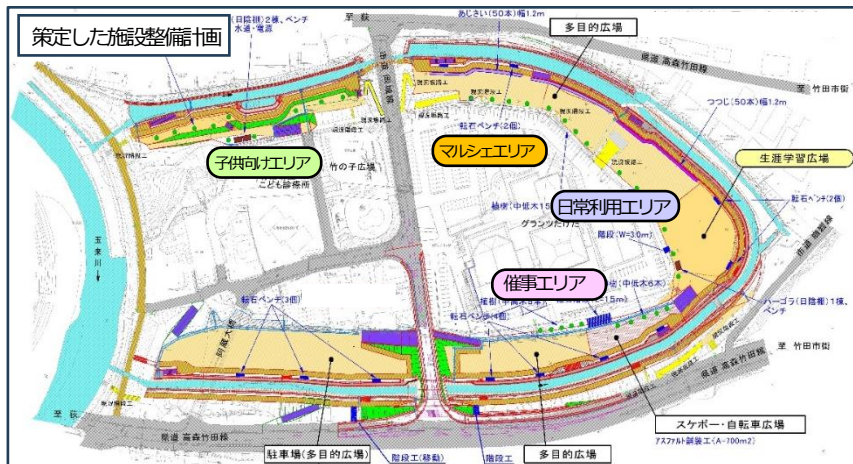
① 子供向けエリア(例:草すべり、遠足、スケッチなどの課外授業) ② マルシェエリア(例:キッチンカー、夜市)

③ 日常利用エリア(例:キャッチボール、サッカー、スケボー)

④ 催事エリア(例:野外ステージを設置し、コンサートや中高生の発表会)



検討会・ワーキング部会の様子



子ども神楽公園

屋外LIVE

JA感謝祭

ダンスイベント

10. 連携した部門

連携した部門（主部門:◎、連携先部門:①～⑤）

道路	河川	都市	住宅	建築	港湾	漁港漁場	鉄道
②	◎	①					

連携した部門に関する情報

	実施機関名	対象事業又は施策	対象事業又は施策の内容
①	竹田市	玉来川かわまちづくり事業	看板、フェンス、パーゴラ、ベンチ、取水・給水施設、電気設備 など
②	竹田市	道路改良事業	市道岡城線の BP 整備

11. 異なる部門の事業が連携した取組の概要

当該地域は復興のシンボルであるグランツ竹田を中心に、周辺施設を含め一体としたまちづくり拠点の整備をするため、河川改修を担う大分県、文化施設・公園整備、道路改良を推進する竹田市が連携して取り組んだ。かわまちづくりの検討にあたっては、河川管理を担う大分県、まちづくりを推進する竹田市、学識者として日本文理大学工学部建築学科の中西教授および中西研究室の学生、さらに地元自治会、PTA、まちづくり団体、商工会議所や商店街、子育て支援団体など、様々な立場の方々に参加いただき、ワークショップやアンケート調査を実施した。こうした多様な主体との協働により、地域が目指す将来像を共有し、周辺施設を含め一体的な利活用ができる施設整備計画を策定した。

12. 各段階における連携の工夫・効果等

① 竹田市かわまちづくり事業

河川敷地内において、利活用を考慮し、案内看板や一般利用者・施設使用者が使用する休憩スペース、電気・給水設備などを設置。



② 道路改良事業(市道岡城線)

周辺エリアの利活用を考慮し、歩行者空間を確保したバイパス整備により、車両と歩行者を分離し安全に通行できる道路環境を整備



市道岡城線【阿蔵工区】バイパス整備

③ かわまちづくり施設名称の公募

当該区域の広報活動とあわせて、整備した交流拠点に対して、地域の愛着を育むことを目的に、施設名称の公募を実施。応募総数146点の中から『たまりバたけた』に決定。玉来(たまらい)地区の「たま」と、川を意味する「リバー(River)」を組み合わせた造語の「たまりバ」に「たまり場」という言葉を重ねたもの。「たまり場」には「仲間がいつも集まる場所」という意味があり、世代を超えて多くの人が集う、玉来地区の交流拠点。



▲考案者への感謝状贈呈式

④ 社会実験の実施

民間事業者による河川空間を活用した賑わいづくりを本格的に進めるにあたり、課題や問題点、地域のニーズを把握することを目的に、社会実験を実施した。

〈実施内容〉

40mゲレンデ流しそうめん、竹灯籠の展示、夜市など

延べ550人が参加

また、社会実験にあわせて、参加者および近隣自治会を対象にアンケート調査を実施。希望するイベントの種類や営業時間、周辺住宅への配慮(騒音・ゴミのマナーなど)について、意見を収集し、その結果をもとに本格運用に向けた募集要綱の作成に反映した。

